

## カトリック山手教会月報

## やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地  
 ☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>  
 第670号 2025年12月14日

## 鈴木 真主任司祭 主日ミサ説教

2025年9月28日 年間第26主日 C年  
 ルカ福音書 16章19～31節



『金持ちとラザロ』の箇所です。「天国と地獄」という思想は、いろいろな宗教や文化の中に見られるものです。概して

生前に善いことをした人は天国へ、悪いことをした人は地獄へ…というわけですが、きょうの箇所は少し違うようですね。

目の前にいる小さい人、立場の弱い人に目を向けないでいることが、神さまから離れてしまうことになり、ともするとそれは取り返しのつかないことになってしまう…という警告です。

神さまに向かうことは人へと向かうことと同じだ、と福音書は説きます。例えば「もっとも重要な掟(マタイ22:34～40、マルコ28～34、ルカでは10:25～の『善いサマリア人』の中で語られる)」では、神と人とを愛すること、と提示されます。神さまを愛するとは、神さまの視点に立って人を愛することと同じである、と。いつも言うことですが、「回心(メタノイア)」とは“視点を変える”という意味ですね。

『聖書と典礼』の注書きにもありますが、「モーセと預言者」とは旧約全体を指す言葉です。具体的に

は「モーセ」は律法(つまり神と人とを大切に、という人間の側からのリアクション)を、「預言者」は神さまから託されたメッセージを人々に伝えること。つまり神さまから何を求められているのか、それにいつも目を向け直すことが大切だ、というわけです。

いつでも、神と人へと向かうことができるよう、祈りたいと思います。

(撮影：編集部 土方芳人)

## 教会学校の洗礼・初聖体

秋晴れの11月23日(日)11時半から「王であるキリストの祭日」に鈴木真神父様司式による「子どもとともに、ささげるミサ」の中で、教会学校3人の洗礼式がありました。今年は、この3人を含む、5人が初聖体のお恵みをいただきました。お説教では『はりねずみのチクチク』という絵本を神父様が読んでくださいました。長すぎる針が邪魔をしてみんなと遊べないはりねずみが、毛が長すぎて困っているヒツジと出会い、お互いにコンプレックスだった針と毛を使い、チクチク編み物を始めます。一緒に編んだマフラーやベストは、みんなにプレゼントしてとても喜ばれました。神父様からは「一見マイナスに見えるものでも神様はうまく使えるようにしてくださっています。神様は何も無駄にしません。誰かのために役に立つようにしてくれています。私たちが誰かのために役に立てるようにしましょう」とお話がありました。

お話の後には洗礼式が行われ、家族と代父母に見守られながら、神様の子どもとして新しい名前をいただきました。今年はガブリエラ、マリア、ヨセフと、ちょうど降誕節前に繋がりのある洗礼名でした。初めてのご聖体拝領では、一人ひとり手のひらに置かれるご聖体を見つめ、心をこめて「アーメン」とこたえます。朗読、共同祈願、奉納、拝領後の祈りの奉仕もみんなでしました。保護者の共同祈願も印象的でした。ミサの終わりに神父様から初聖体証明書を、信徒の方々からは温かい拍手をいただきました。

ミサ後、教会ホールに移動し、お祝いのパーティーが行われました。在校生・卒業生の保護者が中心となって準備をし、みんなで喜びを分かち合い、楽しい会となりました。初聖体感想のインタビューでは「見た目が固そうだった」「いただいたら柔らかくて、心も柔らかくなった」「薄いウエハースみたいだった」という感想には大人たちも思わず笑ってうなずいてしまいました。保護者代表の挨拶では、こちら『ちいさなクレヨン』という絵本を用いてお話をしてくださり、このクレヨンと同じように自分たちの働きが子どもたちの役に立っていることを、リーダー全員が改めて実感しました。閉会のお祈りは、神父様のギター伴奏で『私をお使いください』を手話付きで歌い、おささげしました。

### 洗礼・初聖体おめでとう

Maria	デヴォア	カミーラ	グレイス	貴美子
ステファノ				村田暁斗
アウグスチヌス				藤井 陸
ヨセフ				福田謙介
Gaburiela				高橋 叶



頭に水を注がれる教会学校の子どもたち



上 初聖体 中 鈴木真師、代父母、ご家族とともに 下 パーティーで

(文：教会学校 リーダー 古山 久美子 撮影：  
祭儀・編集部 宮 裕一 パーティー・教会学校)

## 七五三の祝福

11月16日（日）11時30分のミサの中で、主任司祭・鈴木真師による「七五三の祝福」が執り行われました。

聖堂内は秋の穏やかな日差しに包まれ、参加者5人をお祝いしているようでした。子どもたちの未来の成長を願う共同祈願が唱えられ、祝福されたメダイを神父様から一人ひとりかけていただきました。晴れ着に合わせた髪飾りや、かわいいリボンをつけた子どもには、メダイが引っこからないようにと神父様が気を付けておられる様子に心が温まりました。その後、千歳飴を受け取ると全員がうれしそうに眺めていました。

信徒からお祝いの拍手をいただいたときは、少し恥ずかしそうでしたが、記念写真では、きょう一番の笑顔が見られました。神様のお恵みをいただいた子どもたちからは、「緊張したー!」「たくさんの人にお祝いしてもらってうれしかった」という感想が聞かれました。



上 メダイを首にかけていただく 中 拍手  
下 ご家族とともに

(編集部：撮影・宮 裕一 文・古山 久美子)

## パイプオルガン設置30周年 コンサート第2弾!

11月9日、「パイプオルガン設置30周年コンサート第2弾!」として、テノール歌手の山本耕平さんとヴァイオリニストの菊地理恵さんをゲストにお迎えし、コンサートを開催しました。

朝から冷たい雨が降っていて心配でしたが、多くのお客様にご来場いただき、聖堂の中は温かい雰囲気

気に包まれました。演奏曲目は、時代も国も多岐に渡り、オルガンの多彩な魅力を存分に楽しんでいただけのように思います。オルガンは独奏楽器であると共に、歌や楽器の旋律を支える伴奏楽器でもあります。今回は、特別に須藤オルガン工房からポジティブオルガンをお借りし、2台のオルガンによるアンサンブルも実現しました。聖堂正面に置いたポジティブオルガンと、聖堂の後ろに設置されている山手教会のパイプオルガンとの響きが、聖堂全体を清らかな音色で満たし、「まるでイタリアのヴェネチアにいるようだった」といった感想も多く寄せられました。

第2部の演奏が始まる前には、山手教会のパイプオルガンを製作された須藤宏さんにお話しいただきました。須藤さんは、「お金のためにオルガンをつくられたことはなく、それはオルガンが祈りのための楽器だからだ」と語られました。「その楽器を奏でるオルガニストも人からの称賛を求めるのではなく、祈りをささげながら演奏する」という言葉に私はほっとさせられました。ヨーロッパの教会で行われるコンサートでは、演奏の途中で拍手をせず、すべての演奏が終わった後に一度拍手をするのが習わしだそうです。須藤さんのお話を受け、今回の山手教会でのコンサートも第2部からは途中の拍手を控え、最後のみにしていただきました。少し慣れない部分もありましたが、拍手がないことで、演奏後の余韻をじっくり味わえ、演奏者とお客様との一体感がより強まったように感じました。

最後には、アンコールの代わりに『希望の巡礼者』を皆さんと一緒に歌いました。初めて教会にいらした方がこの曲の旋律と歌詞に心を動かされ、帰宅後もYou tubeを聞きながら親子で歌っているとご連絡くださいました。私自身もこのコンサートを通じて、新しい人や曲との出会いがありました。ご来場くださった皆様一人ひとりにとって、心に残る何かがあったならうれしく思います。

いつもスタッフとして支えてくださる信徒の皆様にも、この場をお借りして心より感謝申し上げます。これからも山手教会のパイプオルガンを皆様と共に大切に守り続けていけたら幸いです。



上 パイプオルガンとともに 中段上 中央は山本耕平さん 中段下 ポジティブオルガンを弾く中川美香さん 下左 菊池理恵さん 下右 演奏を終えて

(文：山手教会オルガニスト 中川美香

撮影：編集部 宮 裕一)

## 聖歌隊ミニコンサート開催

10月26日(日)にボーイスカウト、ガールスカウト、幼稚園共催でバザーが行われましたが、私たち聖歌隊もホールにおいて午後1時頃より久しぶりのバザーでのコンサートをさせていただきました。コロ

ナ禍以前は、聖堂で教会学校の子どもたちのかわいい歌の後で歌いました。今年は7曲を披露しました。

最初はモーツァルトとグレゴリオ聖歌のAveverum Corpus。この曲は、9月の講演会の折りにオルガニストの米沢さんが取り上げ、聴衆と共に歌った曲です。そして、グレゴリオ聖歌の方は、11時半のミサの聖体拝領でよく歌うことのある聖体讃歌です。ラテン語の聖歌はもう一つ、チマッティ神父のUbi Caritas「愛と慈しみのあるところ、神はそこにおられる」という歌で、春にロザリオ会の巡礼でチマッティ神父記念館を訪れた時のことを思いおこした方もいることでしょう。ラテン語は現在では使われていない言語ですが、ラテン語を教える学校は多数存在しますし、ミサ曲はほとんどがラテン語で歌われます。何よりも教会に結びついた言語とすることができると思います。その神への意識が今でも指摘される19世紀後半のフランスの詩人アルチュール・ランボーは、幼年時代の記憶と結びついた教会ラテン語に愛着を持っていました。私たち山手教会聖歌隊も長きにわたってラテン語の聖歌を歌ってきましたので、その言語の持つ何とも表現できない神聖な響きに魅せられています。これからもラテン語の聖歌を歌っていきたく願っています。コンサートは、その次に典礼聖歌「主は我らの牧者」と「ごらんよ空の鳥を」アイリッシュハーブの伴奏で歌いました。「主は我らの牧者」は詩編23番、葬儀でも歌われ多くの人の心に残るものだと思います。この詩編は、いろいろなところでよく引用されます。ジョン・フォードの「我谷は緑なりき」、デビッド・リンチの「エレファントマン」という映画の中でも朗読されています。そして「マラナタ」と続き、最後に皆さんと一緒に歌う「希望の巡礼者」で終わりました。この聖年賛歌はとても人気があり、いつも大きな響きとなって返ってきます。

聖歌隊もコロナ禍以前から現在に至るまで、大きな変化を経験してきました。亡くなられた方、病気をかかえてなかなか参加できない方も増えました。悲しいこと、寂しいこと、知らず知らず重なっています。しかし、アウグスティヌスの言葉「歌うことは二倍祈ること」を胸に、「人となられた御子は喜

びと希望への道」と歌いながら、ささやかであっても希望を紡いでいこうと思います。



聖歌隊

(文：聖歌隊 山本 紀志子)

撮影：編集部 宮 裕一)

## ボーイスカウト、ガールスカウト、横浜みこころ幼稚園共催チャリティーバザー開催

10月26日（日）ボーイスカウト、ガールスカウト、横浜みこころ幼稚園共催でチャリティーバザーが開催されました。今年、ロザリオ会にもご協力をいただきました。教会をはじめ、幼稚園園児、卒園生、未就園児など、多くの方にご来場いただきました。この日は近くでハロウィンのイベントがあり、仮装を楽しむ子どもたちも多くにぎやかなバザーとなりました。

教会ホールでは、ボーイスカウトが提供する焼きそば、ホットドッグ、ロザリオ会はパンプキンスープ、花苗、焼売、手作り洋菓子、キャンディー・レイ、手作り人形、卒園生からはドーナツの販売がありました。教会売店では、おメダイや絵本などを手にとる姿がみられ、聖歌隊からは歌の披露もあり、ご来場者の皆様も笑顔で楽しいひと時を過ごすことができました。

園庭ではガールスカウトによるヨーヨーつり、幼稚園の教室では、ボーイスカウトによるボーリング、その他、幼稚園の魚つり、スーパーボールすくい、ガチャポン、スタンプラリーなどのゲームがあり、行列ができるほどの賑わいを見せていました。お遊戯室ではロザリオ会からの寄贈品、手作りの手芸品やガレットの販売もありました。手芸品は心のこもったすてきな作品が多く愛情が伝わってきました。

このバザーを通して、ご家族でチャリティーの意

味を考え、支援を求めている方々のために何ができるかを話し合い、一人ひとりが自覚を持って行動することの大切さを感じました。一人ひとりの力は小さくても、互いに協力し合うことで、苦しんでいる方、救いを求めている方の助けになるということも実感できました。

バザーの収益金は、福祉団体や、カリタスジャパンを通して支援を必要としている方々のために大切にに使わせていただきます。

雨が降る中でのバザーとなりましたが、教会や幼稚園の皆様が笑顔で一日を過ごすことができましたことを神様に感謝いたします。準備の段階から当日の後片付けまでお手伝いいただいた方々、ロザリオ会の皆様、教会売店の皆様、聖歌隊の皆様、バザーにご協力いただきました全ての方に心より御礼申し上げます。



上 ペットボトルのピンを倒すボーイスカウトのボーリング。中段左 何が釣れるかワクワク魚つり。中段右 ガチャポン。下 キャンディー・レイのレイをかけもらう子どもたち。ロザリオ会のコーナーで。6ページ左上 ボールが入った数で順位が決まるボールでポン。



(横浜みこころ幼稚園 園長 福井真理)

## 『山手墓地・第5回合葬墓合同納骨式』ほか

夜半までの大雨がすっかり過ぎ去り、風もなく落ち着いた霧囲気の中で第5回山手墓地・合葬墓合同納骨式を11月1日(土)午後1時から鈴木真神父様の司式で厳かなうちに行いました。今回は、19家族、31柱を会葬者およそ60人をお迎えし埋葬いたしました。

日々お墓の将来を深く考える信徒が増えて参りました。「墓じまい」の傾向が強まるなか、山手教会でも、合葬墓に関心を示すお問い合わせが増えております。読者の皆様で将来のお墓についてご関心がある方は、お気軽にお声掛けください。

### <墓地ご利用の申し込みについて>

山手墓地、納骨堂、合葬墓及び相沢墓地の利用を希望される信徒の方については、従来実施していた抽選方式による募集は廃止し、現在は、事務所で随時、受付を行っております。

帰天された方々への畏敬と感謝の念をもって永遠の安息を祈り、埋葬いたします。感謝と祈りのうちに。



(撮影：山手教会墓地委員会 委員 羽石 三輪子  
文：委員長 末澤二郎)

## 2025年11月度教会委員会議事要約

日時：2025年11月2日(日) 午後1時～3時10分

場所：司祭・信徒館1階「松・竹」

議事内容（議事進行：小倉委員長）

### 1 主な審議確認検討事案 ※順不同

#### (1) 司祭・信徒館「松・竹」隣接空地の防草処理について

- 司祭・信徒館「松・竹」隣地の空き地に雑草が大量に繁殖しており、手で引き抜くには限界がある状態である。対策としてエコグローブと防草シートによる工法の見積もりを取得したので検討されたい。

#### 【決定事項】

- ・防草シートの工法の検討を進める。

#### (2) 入門式の日程について

- 通常入門式は待降節第1主日であるが、今年は該当の11月30日(日)に巡礼予定が入っているため、翌週の12月7日(日)に入門式を行いたい。

#### 【決定事項】

- ・承認する。

#### (3) 『毎日のミサ』表紙の写真撮影について

- カトリック中央協議会の契約カメラマンから『毎日のミサ』表紙とドン・ボスコ社カレンダーに掲載する写真の撮影許可申請が届いた。

#### 【決定事項】

- ・承認する。

#### (4) セブ島地震被災者のための募金について

- セブ島地震被災者支援のための募金のお願いが来ている。これは横浜教区福祉委員会から聖ヴィンセンシオの宣教会を通じて物資の運搬に用いる軽トラックの購入資金として使われるものである。

#### (5) 写真の専門学校からの写真撮影許可依頼

- 写真関係の専門学校の方から写真撮影の許可依頼が来た。

#### 【決定事項】

- ・スケジュールが合えば許可する。

**(6) 来年のチャリティコンサートについて**

- 2026年3月22日（日）と5月30日（土）にそれぞれコンサートの開催を希望する。

**【決定事項】**

- ・ 承認する。（3月22日に関しては、スペイン語ミサとの調整ができれば可とする）

**(7) 来年の信徒大会などについて**

- 来年度の委員会メンバー、信徒大会の日程について検討。
- 大会資料向けの各会のスケジュールの提出依頼。

**【決定事項】**

- ・ 信徒大会は2月8日とする。

**(8) 司祭・信徒館の掃除について**

- 司祭・信徒館の各部屋汚れの気になることがあり、学連の合宿の際も掃除をしないと寝られない状態であった。

**【決定事項】**

- ・ 部屋を使用した人が掃除をすることとする。
- ・ 各部屋に掃除用具を常設する。

**2 今後の活動、報告事項****【ヨゼフ会より】**

- 11月23日（日）ミサ後に司祭・信徒館「松・竹」で映画上映会を行う。

**【聖堂・教会ホールの大掃除について】**

- 大掃除を12月6日（土）9時から行う。

**【聖年の巡礼について】**

- 11月22日（土）11時から第3地区合同巡礼が行われる。巡礼指定教会である山手教会がゴールとなる。

**【聖年の閉幕について】**

- 12月28日（日）司教様司式で聖年の閉幕のミサを行う。

**【共同回心式について】**

- 12月21日（日）11時半ミサで共同回心式、その後、ゆるしの秘蹟。

**【12月25日のミサについて】**

- 12月25日（木）のミサは、9時半より戸部教会・主任司祭のラジュ師司式の英語、11時半より日本語。

**【ロザリオ会より】**

- ロザリオ会主催のミサは、11月7日（金）グェツプ師司式予定。12月は、5日（金）鈴木師司式、1月は、お休み。

**【聖堂のエアコン更新について】**

- 聖堂のエアコン更新の具体的な工事内容が決定した。今後、図面化と見積もりを行い具体的に進めていく。

**【教会前の植栽剪定費用について】**

- 教会前の道路にはみ出ている植栽の剪定費用の見積もりを取得、実施する。

**【ICCより】**

- 11月2日（日）のミサで死者の祈りをささげ、約1600人の名前を読み上げた。
- 12月6日（土）の大掃除後にクリスマスの装飾を行う。

**【日本語のベネディクションについて】**

- 今後、毎月第2土曜日の午後3時30分からグェツプ師による日本語のベネディクションを行う。

**【追悼ミサ及び納骨について】**

- 11月1日（土）に追悼ミサを行い、同日、山手墓地合葬墓合同納骨式で31人の納骨を行った。

**【司祭・信徒館エレベーターの更新について】**

- 2026年1月に、工期1か月ほどで行われる予定。

**【来年度予算について】**

- 聖堂の空調機の更新などの費用を計上。支出は修繕関連が大きくなる見込み。

**【福祉委員会より】**

- 障害者団体などの案内を引き出しに入れてあるので活用されたい。

**3 主任司祭から**

- 第2日曜日の英語ミサをラジュ師に依頼、グェツプ師は戸部教会に行っている。
- 来年の司教訪問は5月24日（日）の聖霊降臨に堅信式を申し込んだ。

**4 次回教会委員会**

2025年12月7日（日）午後1時～3時終了予定。

（総務担当 斎藤 悠美子）



2025年12月・2026年1月主日ミサの聖歌および奉仕者予定表

主 日	聖 歌			聖歌隊	時 間	奉 仕 者				備考
	答唱詩編	アレルヤ唱	ミサ曲			オルガン	先 唱	聖書朗読		
12月14日 待降節第3主日	典19 ①③④	典255 第3主日	ミサ曲A 典605~9		前日pm5:00	村 松	齋藤(悠)	小佐井	福田(直)	
					7:30	中 川	二 宮	東海林(珠)	時 久	
					* 11:30	太 田	子どもとともにささげるミサ			
21日 待降節第4主日	典158 ②③④	典257 第4主日A	ミサ曲A 典605~9		前日pm5:00	太 田	工藤(元)	飯塚(秀)	志村(光)	
					7:30	渡 邊	末 澤		萩原(恵)	
					* 11:30	佐 藤	小 山	中川(由)	佐伯(奈)	
24日 主の降誕(夜半)	典148 ①④⑤	典258 主の降誕 (夜半)	ミサ曲A 典605~9	*	pm8:00	佐 藤	齋藤(悠)	上瀧(聡)	ICC	雙葉学園 講堂
25日 主の降誕(日中)	典149 ①②③	典258 主の降誕 (日中)	天使ミサ カ503	*	11:30	米 沢	工藤(元)	川田(耕)	池田(恵)	
28日 聖家族 (通常聖年閉幕式)	典103 ①②	典258 聖家族	ミサ曲A 典605~9		前日pm5:00	太 田	宮	工藤(元)	島田(節)	
					7:30	小 嶋	亀 井	羽石(三)	藤本(茂)	
					11:30	米 沢	小 倉	石田(明)	中野(説)	
1月1日 神の母聖マリア	典55 ①②③	典258 神の母	ミサ曲A 典605~9		11:30	太 田	山本(紀)	細谷(雄)	中川(由)	
4日 主の公現	典136 ①②③④	典258 主の公現	ミサ曲A 典605~9		前日pm5:00	渡 邊	竹之内	新井田	阿部(眞)	
					7:30	手 束	石 賀	鈴木(幸)	鈴木(由)	
					* 11:30	手 塚	山本(紀)	清水(美)	雨宮(み)	
11日 主の洗礼	典23 ①②③	典258 主の洗礼	ミサ曲A 典605~9		前日pm5:00	村 松	齋藤(悠)	小佐井	福田(直)	
					7:30	中 川	二 宮	東海林(珠)	時 久	
					* 11:30	佐 藤	遠 藤	石田(明)	中野(説)	
18日 年間第2主日	典54 ①②③	典271 年間2A	ミサ曲A 典605~9		前日pm5:00	太 田	工藤(元)	飯塚(秀)	志村(光)	
					7:30	渡 邊	末 澤	久保田 (智)	萩原(恵)	
					* 11:30	米 沢	小 山	中川(由)	佐伯(奈)	
25日 年間第3主日 (神のことばの主日)	典73 ①②⑥	典268 年間3A	ミサ曲A 典605~9		前日pm5:00	手 塚	宮	工藤(元)	島田(節)	
					7:30	小 嶋	亀 井	古谷(浩)	藤本(茂)	
					11:30	中 川	子どもとともにささげるミサ			

編 集 後 記

山下公園から見る港は満潮で潮に乗りやって来たボラたちが、海面のあちこちでピョンピョンと飛び跳ねていました。ほとんどのボラは海面から垂直に数十cm程度飛び跳ねていましたが、その中であって抜群の運動神経の持ち主がいたのです。突然、わたしの目の前の岸壁から 10m程度離れたところから体長40cm程度のボラが1m以上も海面から飛び上がると数m先の海中に潜り、連続して同様のジャンプを5回も繰り返したのです。しかも、これで終わりではなく、30秒ぐらい後に再び連続5回ジャンプを決めたのです。魚の進んだ方角と体の大きさから彼(?)だと思いました。魚の競技大会があれば、彼が優勝するかもしれませんね。  
(土方芳人)

☆表紙のカット(山手教会)は、濱尾文郎枢機卿様の「えはがき」です。